

# 「糖尿病」人材育成へ研究会

## 利根保健医療圏 診療充実目指し設立

県東北部14市町の「利根保健医療圏」の医師や看護師らが、糖尿病を中心とした地域医療の充実策などを考える「埼玉利根医療圏糖尿病ネットワーク研究会」を設立した。人口に占める

実働医師数の割合が全国最少の埼玉県内でも、同医療圏は特に少ない地域として知られる。とりわけ糖尿病診療の分野は医師不足が指摘されており、医療従事者が組織や職種を超えて交流

し、専門医らを招いた勉強会を開くなどとして、人材の育成などを旨指す。

杉戸町の東埼玉総合病院・地域糖尿病センターが中心となって設立準備を進めてきた。17日に久喜市内で開かれた初会合では、病院や診療所の医師、看護師に加え、薬剤師、栄養士、理学療法士ら約100人が参加。糖尿病の治療に使われるインスリンの基礎知識などについて、専門医らから

話を聞いた。事務局を務める同センターの中野智紀医

## 県内医師不足なお深刻

人口10万人  
当たり 全国平均、大きく下回る

厚生労働省の隔年調査で、2008年末に県内の医療施設で働いていた医師は9954人、人口10万人あたり139.9人となり、全国平均の212.9人を大きく下回った。前回

師は「医療従事者が連携して地域の患者さんを十分に支えていける仕組みを作りたい」と話している。

研究会は今後、2か月ごとに開催予定。問い合わせは、事務局（ファクス0480・37・2513）へ。

人、千葉県が4.8%増の161.0人、神奈川県は5.3%増の181.3人で、増加率、医師数とも埼玉県を上回っている。

全国的な医師不足が懸念される産婦人科医は、埼玉県内では、15・49歳の女性10万人あたり29.4人。最下位の奈良県の28.3人は上回ったが、全国平均の39.8人を大きく下回った。小児科は143.1人で、下から5番目。全国平均は174.7人だった。

県医療整備課は「都内の病院を利用する県民が多いため、一概に医師不足が深刻とは言えない」としている。

\* この記事は、読売新聞社の許諾を得て転載しています。